インフォメーション・コーナー

会　告
○平成 28 年度農業農村工学会大会講演会の開催について（第 1 報）Ⓟ　**平成 28 年 8 月 30 日～9 月 2 日開催** ……70
○土地改良事業設計指針「ため池整備」の発行について（再）……70
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い……71
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !! ……71
○平成 29 年の学会誌表紙写真の募集　**秋季～冬季締切　平成 28 年 3 月 31 日** ……71
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！……72
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い……73
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2015 年 1 月から 2017 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ……74
○平成 27 年度北海道支部講習会の開催についてⓅ　**申込締切　平成 28 年 1 月 8 日** ……74
○平成 27 年度京都支部地方講習会・研修会の開催について（第 1 報）Ⓟ　**平成 28 年 2 月 10 日開催**……75
○第 53 回材料施工研究部会シンポジウムの開催についてⓅ　**申込締切　平成 28 年 1 月 15 日** ……75
○平成 27 年度農業水利研究部会研究集会の開催について（第 1 報）Ⓟ　**平成 28 年 2 月 6 日開催** ……76
農業農村工学会論文集内容紹介……77
学会記事……78

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について，下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう，お待ちいたしております。
Ⓟ のマークは，技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの，および認定申請中のものを表しています。

開　催　日	主　催	行　事　名	テ　ー　マ	開催場所	掲載号
平成 28 年 1 月 20 日	北海道支部	平成 27 年度支部講習会 Ⓟ	寒冷地における農業施設の耐震設計と機能保全	札幌市	83 巻 12 号
平成 28 年 1 月 25 日	農業農村整備政策研究部会	第 3 回研究集会 Ⓟ	——	東京都	83 巻 11 号
平成 28 年 1 月 29 日	材料施工研究部会	第 53 回シンポジウム Ⓟ	農業水利施設の維持管理における非破壊検査の現状と課題	津市	83 巻 12 号
平成 28 年 2 月 6 日	農業水利研究部会	平成 27 年度研究集会 Ⓟ	農業用水の受給構造の変化に対応した適正水管理システムの構築（仮）	東京都	83 巻 12 号
平成 28 年 2 月 10 日	京都支部	平成 27 年度地方講習会・研修会 Ⓟ	——	金沢市	83 巻 12 号
平成 28 年 8 月 30 日～9 月 2 日	大会運営委員会	平成 28 年度農業農村工学会大会講演会 Ⓟ	——	仙台市	83 巻 12 号

第 84 巻第 1 号予定
展望：小泉　健
小特集：人材育成の場を考える
①農林水産省における農業農村整備技術研修の概要と今後のあり方：鈴木豊志
②静岡県における技術者教育の現状：八木嘉隆
③コンサルタントの社内外における人材育成：大村　仁
④大学が進める技術者教育講座の成果：橋本布美子ほか
⑤岡山大学における農業土木に関わるキャリア教育の現状：近森秀高
⑥新潟地域における産官学連携による農業農村工学の普及・高度化：森井俊広
⑦農村工学研究所の技術研修の概要と今後の取組方向：島　尚士
⑧大学院博士課程における人材育成の現状と課題：久保成隆
技術リポート
北海道支部：農地整備事業の実施にともなう河跡湖の水質モニタリング：高木優次ほか
東北支部：本堂城回地区における圃場整備事業が地下水位へ及ぼす影響：田口　博ほか
関東支部：杭基礎施工に係る地盤改良について：野澤宗彦ほか
京都支部：富山県における農業用水を利用した小水力発電の推進：加藤真一
中国四国支部：広域営農団地農道整備事業における LED 照明の設備事例：間野　智ほか
九州沖縄支部：水土里情報を活用したイネヨトウ交信かく乱剤設置後の効果測定について：仲田朝毅

平成28年度農業農村工学会大会講演会の開催について（第1報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中

平成28年度農業農村工学会大会講演会は，宮城県仙台市において開催します。大会講演会への投稿，参加申込みはWebからになります。投稿要領，参加申込み方法など，詳細は続報でお知らせいたします。

1．開催日　平成28年8月30日（火）～9月2日（金）

講演会：平成28年8月30日（火）～9月1日（木）

交流会：平成28年8月30日（火）

現地研修会：平成28年9月2日（金）

2．場　所

開会式：ホテル法華クラブ仙台

講演会：ホテル法華クラブ仙台，ハーネル仙台

交流会：ホテル法華クラブ仙台

・ホテル法華クラブ仙台

〒980-0014　仙台市青葉区本町2-11-30

TEL：022-224-3121

・ハーネル仙台

〒980-0014　仙台市青葉区本町2-12-7

TEL：022-222-1121

3．大会期間中の宿泊について

宿泊の斡旋は行いません。また，仙台市内の宿泊は大変混雑していますので，6カ月前程度の予約をお勧めいたします。

4．発表申込み

Web投稿の受付期間は平成28年3月1日（火）～4月22日（金）といたします。

土地改良事業設計指針「ため池整備」の発行について（再）

この度，土地改良事業設計指針「ため池整備」が平成27年10月27日に発行されました。

〈主要改定項目〉

(1)　設計・施工実態の反映

ため池の設計・施工上の留意点について，意見・要望及び近年における設計・施工の実態等を踏まえ，記載内容の充実に努めた。

(2)　新技術等の追記

開発された新技術や工法例等を記述した。

・官民連携新技術研究開発事業により開発した原位置試験

・耐震対策及び液状化に関する対策工法

・柔構造底樋の構造設計手法 等

(3)　レベル2地震動に対する耐震性能照査

a. レベル2地震動に対する耐震性能照査を実施するに当たり必要な地質調査及び土質調査方法について整理するとともに，調査の目的・調査箇所の選定方法について記述した。

b. レベル2地震動に対する耐震性能照査手法について，基本的な考え方を記述した。

(4)　液状化の検討

堤体及び基礎の液状化に対する判定手法について，基本的な考え方を記載するとともに液状化の判定（FL値法）に用いる設計水平震度等の算定手法について記述した。

購入希望の方は，下記要領にてお申し込み下さい。

1．発行書籍

書籍名：土地改良事業設計指針「ため池整備」

監　修：農林水産省農村振興局整備部

発　行：（公社）農業農村工学会

価　格：2,500円（消費税8%込，送料学会負担）

規　格：A4判　261ページ

改定年月：平成27年5月

2．申込方法

I．個人，法人の場合（賛助会員を除く）

①郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先をご記入下さい。
振替口座番号：00160-8-47993
加入者：公益社団法人 農業農村工学会

②現金書留：書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を書いた注文書をご同封下さい。

③代金引換：書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailまたはFAXでお送り下さい。別途，代引手数料が必要です。

II．官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を書いた注文書をE-mailまたはFAXでお送り下さい。

3．申込先

〒105-0004　東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会事務局　図書係

TEL：03-3436-3418　FAX：03-3435-8494

E-mail：suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は，農業農村工学の学術・技術の発展を通じて，わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし，昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ，農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり，東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには，若い世代の育成，新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は，これら諸活動に資するものとして，平成3年4月に学術基金を創設し，これに上野賞基金や冨士岡研究奨励基金を統合し，さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては，会員各位からの多くのご支援をいただきたく，お願い申し上げます。

なお，この学術基金は今後，学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口　5,000円（何口でも可）

法人会員一口　50,000円（何口でも可）

送金方法　銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金　No.1569058

口座名　（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名　農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!

農業農村工学会では，学会員であり，かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として，平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり，かつCPD個人登録者は，どなたでも無料で参加することができ，通信教育分【ac】として年間最大24 cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に，是非CPD通信教育へご参加下さい。

なお，解答内容については技術者倫理に則り，自らの責任で送信して下さい。

1．参加資格

農業農村工学会の個人会員であり，かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2．出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から，択一式で毎月10問を出題

3．解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し，送信（事前にWeb利用登録が必要）

4．解答期限

問題掲載号の月から翌月末日まで

（例：学会誌12月号掲載の問題は1月末日が解答期限）

5．取得できるCPD単位

10問正解で2 cpdを，7～9問正解で1.5 cpdを自動登録

（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。）

6．自動登録の時期

取得したCPD単位は，解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成29年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では，平成29年発行の学会誌も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ，ご応募下さい。

趣　　旨

わが国において，土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は，農地を形成し，水を送り，物と人をつなぎ，連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは，長年の風雨にさらされながらも，機能を保ち続け，その地域の自然や文化に溶け込み，農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は，地域の人々によって大切に守り，管理された結果，四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずです。それらは，農村地域のみならず，都市の景観の中にも見つけることができるでしょう。

農業農村の現場で活躍される皆さま，日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて，忙しい業務の合間にも，足を止め，手を休めて写真として記録していただき，広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1．テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」

2．対象巻号　学会誌第85巻（平成29年1～12月号）

3．写真の種類

応募写真はデジタル，フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。(四つ切りワイド，A4サイズも含みます)。なお，六つ切りは203×254 mm，四つ切りは254×305 mm，同ワイドは254×356 mm，A4は210×297 mmです。カラー，モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき20MB以下とし，形式はJPEGのみに限定します。

4．枚　数

応募写真に制限はありませんが，未発表のものに限ります。

5．締　切　秋季～冬季　平成28年3月31日
春季　平成28年6月30日
夏季　平成28年9月30日

※応募時，過去1年以内に撮影したものに限ります。

6．審　査　審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7．結果発表

学会誌第85巻第1号で採用作品と掲載号を発表し，採用作品は平成29年度全国大会会場でパネル展示します。

8．謝　礼

採用作品には規定の賞金（1点につき3万円）をお支払いします。また，すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9．「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は，採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお，些少ですが原稿料をお支払いします。

10．使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

11．注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか，表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には，農業施設・構造物の形状や機能が，その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

12．応募方法および応募先

学会ホームページより，応募票をダウンロードし，タイトル，郵便番号，住所，氏名，勤務先，電話番号，E-mailアドレス，写真のテーマ，撮影場所，撮影年月日，対象物の固有名称（固有名詞），対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し，応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお，原則として，応募写真は返却いたしません。

〒105-0004　東京都港区新橋5-34-4
公益社団法人　農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係
☎03-3436-3418　FAX 03-3435-8494
E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には，農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」，「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上，ご投稿下さい。

学会誌84巻の小特集のテーマ

小特集テーマ			要旨締切（A4判1,500字以内）
84巻	1号	人材育成の場を考える	公募終了
	2号	——	公募なし
	3号	大規模水田農業の未来を支える技術（仮）	公募なし
	4号	農村地域での総合的な地域排水対策の推進と想定被害情報の共有（仮）	公募締切12月15日
	5号	農業土木での環境配慮はなぜだか難しい（仮）	公募締切1月15日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても，広く募集しておりますので，学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお，小特集テーマが仮題となっているものは，予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は，**刷上り4ページ**となっておりますので，ご執筆の際には**厳守**いただきますよう，お願いいたします。

送付先　〒105-0004　東京都港区新橋5-34-4
公益社団法人　農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
TEL：03-3436-3418　FAX：03-3435-8494
E-mail：henshu@jsidre.or.jp

84巻4号テーマ「農村地域での総合的な地域排水対策の推進と想定被害情報の共有」（仮）

近年，農村地域において，集中豪雨などの異常気象に起因した湛水被害が多く生じるようになってきた。農村地域では，都市化，混住化が進み，農業水利施設が副次的に地域排水を受け持つ役割を担うようになってきている。また，時間当たりの降雨強度が大きくなっていることで，地区内排水の流出ピークが変化するとともに，排水先の河川への負荷が大きくなるため，河川の改修が進んでいない一部の地域では，地区内排水を処理できず，農地のみならず家屋や公共施設などに浸水被害が発生するようになっている。

これらの近年の状況から，地域排水において農業用排水機場や排水路といった排水施設の機能を最大限に活用するとともに，農業用ため池や田んぼダムなどの貯留機能を利用して，地域の防災・減災対策を進めていくことが強く求められるようになってきた。このため，今後，地域の排水対策を実施するに当たり，排水機場や排水路のハードに加えて，貯留機能の活用に関するソフト対策の検討が重要となる。また，これらと合わせて，営農の継続性の確保あるいは二次災害の防止を図るための浸水ハザードマップあるいはため池ハザードマップの作成，さらには防災連絡体制の整備などを通して，想定被害を理解・共有するための地域の取組みを進めていく必要がある。これには，関係機関の一層の連携が求められる。

そこで，本小特集では，農村地域において，上述のようなハードおよびソフト対策を通した「総合的な地域排水対策の推進」，ハザードマップ作成や地域の取組みによる「想定被害情報の共有」に関連する事例，さらにはこれらのさまざまな対策・取組みを含めた形で広く地域の防災体制強化につながる調査・研究などについて，報文を募集する。

84巻5号テーマ「農業土木での環境配慮はなぜだか難しい」（仮）

農業土木にかかわる現場技術者，研究者・専門家，行政担当者，そして農家はこれまで環境配慮を試行錯誤しながら進め，二次的自然の保全・維持管理の成果を上げてきました。しかし，それでもまだいくつか改善できる点があり，その多くが“環境配慮の現場”で生じています。この改善のカギは，根源的な問いでもある「そもそも環境配慮とは誰にとってどうあるべきか」を整理することと，現場で必要とされる「土木工学的な技術解」（たとえば，環境配慮型の水路工法，水田魚道など）と「社会解」（たとえば，環境再生から地域再生へのリフレーミング，農産品の環境ブランド化など）を導き出すことにあると思われます。

本小特集では，平成26，27年度の農業農村工学会大会講演会の企画セッション「農業土木での環境配慮はなぜだか難しい」において議論したテーマに関わる課題を広く整理，分析した報文，難しさを感じている，あるいは難しさを乗り越えた事例などに関する報文を広く募集します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering：PAWEES）では，機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは，インパクトファクターが1.151（2015年版）と高く，モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文，技術論文が多数掲載されていますので，研究者のみならず，各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は，次のように幅広い内容となっています。

① 灌漑（水配分管理，水収支，灌漑施設，栽培管理）
② 排水（排水管理，排水施設）
③ 土壌保全（土壌改良，土壌物理）
④ 水資源保全（水源開発，水文）
⑤ 水田の多面的機能（洪水調節，地下水涵養など）
⑥ 生態系の保全（水生，陸生動植物の生態系）
⑦ 地域計画（農村計画，土地利用計画など）
⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境，土壌環境，気象環境）
⑨ 水田の多目的利用（田畑転換，施設園芸）
⑩ 農業政策（農村振興，条件不利地の支援策など）

出版社：Springer-Japan社
発行スケジュール：年4回
購読料：正会員・名誉会員 12,343円
学生会員（院生含む）8,743円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は，まず農業農村工学会にご入会の上，お申し込み下さい。

申込先：農業農村工学会編集出版部　中村あて

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2015年1月から2017年12月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering）の機関誌，国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は，2015年10月にVol.13，No.4が発行されました。

本ジャーナルは2009年12月より，トムソン・ロイター社のSCIE（Science Citation Index Expanded）に収録されています。わが国においても学術誌の評価に，SCIEのIF（Impact Factor）が利用されており，本国際ジャーナルはIF＝1.151（2015年版）と高い評価を得ております。

また，世界14カ国からEditor（23名）を選出することにより，国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし，さらに国際的な流通を考慮して，国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は，Review，Article，Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに，年4回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員でPWE誌の購読者に限りますが，**投稿料，掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2015年1月から2017年12月までの編集事務局は韓国です。

投稿先：オンライン投稿（http://pawe.edmgr.com/）をご利用下さい。

編集事務局：Professor Dr. Jin-Yong CHOI
Deputy Director General, Institute of Green-Bio Science and Techology
Rural Water and Information Engineering Lab.
Rural Systems Engineering Program, College of Agriculture and Life Sciences, Seoul National University
1 Deahak-ro, Kwanak-gu, Seoul, Korea 151-742
TEL：+82-2-880-4583　FAX：+82-2-873-2087
E-mail：iamchoi@snu.ac.kr

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。
その分野は，水田農業地帯における灌漑と排水，土壌保全，土地資源や水資源の保全と管理，水田の多面的機能，農業政策，地域計画，バイオ環境システム，生態系の保全，水田保全，田畑輪換等である。

編集体制

・**Editor-in-Chief：Dr. Masaru MIZOGUCHI**（Japan）
Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

・**Editors**　14カ国から23名

・**Editing Board**　26名

・**Chief Management Editors**

Dr. Jin-Yong CHOI
Institute of Green-Bio Science and Techology, Seoul National University, Korea

Dr. Yoshiyuki SHINOGI
The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

・**Managing Editors**

Dr. Haruhiko HORINO
Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA
Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin LIN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Ming-Daw SU
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

出版社：Springer-Japan社

投稿資格：**筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者**であること。

投稿要領等：http://pawe.edmgr.com/に詳細を記載しています。

平成27年度北海道支部講習会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中

北海道支部では以下のテーマで講習会を開催します。多数のご参加をお待ちしております。

1．**日　時**　平成28年1月20日（水）9：30～14：30

2．**場　所**　札幌市・北海道大学学術交流会館2階 講堂
（札幌市北区北8条西5丁目・北大正門すぐ）

3．**テーマ**　寒冷地における農業施設の耐震設計と機能保全

4．**プログラム**

「土地改良事業設計指針「耐震設計」の改定について」
農林水産省農村振興局設計課施工企画調整室課長補佐
鈴木豊志

「大規模地震時や豪雨時に幹線用水路で想定される災害対応の被害リスク」
寒地土木研究所水利基盤チーム総括主任研究員
大久保　天

「『農業水利施設の機能保全の手引き』の改定について」
農林水産省農村振興局水資源課施設保全管理室課長補佐
樺山大輔
「積雪寒冷地における農業水利施設の長寿命化に向けた取組」
鳥取大学農学部生物資源環境学科教授　緒方英彦

5．参加申し込み

下記様式により，E-mail，Fax または郵送にて申込み下さい。締切は平成 28 年 1 月 8 日（金）です。

6．申込み・問合せ先

〒060-8589　北海道大学大学院農学研究院内

所属機関		
同上所在地		
申込代表者	TEL	
氏　名	所　属	備　考

農業農村工学会北海道支部事務局
担当：柏木淳一　E-mail：kashi@env.agr.hokudai.ac.jp
TEL：011-706-3641　FAX：011-706-2494

7．参加費用　2,000 円

平成 27 年度京都支部地方講習会・研修会の開催について（第 1 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中

平成 27 年度農業農村工学会京都支部地方講習会・研修会を下記のとおり平成 28 年 2 月 10 日（水）に開催します。

1．日　時　平成 28 年 2 月 10 日（水）10：00～17：00 予定

2．場　所　石川県教育会館
〒920-0805　石川県金沢市香林坊 1-2-40
TEL：076-222-1241　FAX：076-222-1242
http://kyouiku-kaikan.wix.com/ishikawa#!home/mainPage

3．問合せ先

北陸農政局農村振興部設計課　河淵，今川
〒920-8566　金沢市広坂 2-2-60
TEL：076-263-2161　FAX：076-234-8051
E-mail：teturo_kawabuchi@hokuriku.maff.go.jp
kazuhiro_imakawa@hokuriku.maff.go.jp

4．詳　細

参加申込書詳細は，本誌 1 月号に掲載予定の第 2 報でお知らせいたします。

第 53 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中

1．主　催　農業農村工学会材料施工研究部会

2．テーマ　農業水利施設の維持管理における非破壊検査の現状と課題

3．開　催　平成 28 年 1 月 29 日（金）

4．場　所　三重県総合文化センター　多目的ホール
〒514-0061　三重県津市一身田上津部田 1234
http://www.center-mie.or.jp/

5．プログラム

9：50～10：05　開会式
10：10～10：40　材料施工研究部会　研究奨励賞授与式
10：50～11：50　講演発表 1＜基調講演＞
これからの維持管理と非破壊検査の役割
農村工学研究所施設工学研究領域　中嶋　勇
11：50～12：50　（昼食）
12：50～16：00　講演発表 2＜一般講演＞
(1)　中勢用水地区安濃ダムにおける堆砂の現状と課題
東海農政局木曽川水系土地改良調査管理事務所
保全整備課　二村弘喜
(2)　農業水利施設の水理・水利用実態に起因する鋼矢板材の腐食と補修・補強対策
新潟大学自然科学系　鈴木哲也
(3)　潤滑剤の評価による農業用ポンプ設備の機能診断
農村工学研究所　國枝　正
（休憩）
(4)　凍害が生じているコンクリート開水路の診断と対策工法　鳥取大学農学部　緒方英彦
(5)　農業用ダムにおけるレベル 2 地震動耐震性能照査について（調査・解析の事例）
（株）三祐コンサルタンツ総合技術第 1 部　渡部大輔
(6)　空中超音波法によるコンクリート水路の表面粗さの測定　三重大学生物資源学研究科　岡島賢治
16：00～16：05　閉会式

6．参加費　4,000 円

7．申込み

以下の項目をご記入の上，FAX もしくは E-mail にてお申し込み下さい。その際，標題欄には「材料施工研究部会シンポジウムへの参加申込」と明記して下さい。

①参加者氏名，②所属機関名，③所在地，④ TEL，FAX，E-mail アドレス，⑤弁当（代金￥1,000）予約注文希望の有・無（なお，三重県総合文化センター内にはレストラン，喫茶，売店があります），⑥ CPD 番号（登録希望の方）

8．申込み・問合せ先

〒514-8507　三重県津市栗真町屋町 1577
三重大学生物資源学研究科共生環境学科
材料施工研究部会事務局
申込受付担当：岡島賢治
TEL：059-231-9586　FAX：059-231-9591
E-mail：okajima@bio.mie-u.ac.jp

9．申込締切　平成 28 年 1 月 15 日（金）

10．宿　泊　各自で手配して下さいますようお願いいたします。

平成 27 年度農業水利研究部会研究集会の開催について（第 1 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中

わが国の農村地域では，今後，農地集積が加速化することによって大規模かつ少数の担い手が地域の水利用の太宗を占めた場合，より地域の営農を重視した水管理システムへの転換や，これを支える持続可能な水管理体制の再編等を行うなど，新たな農業水利システムの構築が必要とされています。このような情勢にかんがみ，当部会では，供給重視から営農重視の水管理への転換ならびに持続可能な水管理体制の構築のあり方に焦点を当て研究集会を開催し検討することにしましたので，ここにご案内いたします。なお，参加はどなたでも自由です。

1．日　時　平成 28 年 2 月 6 日（土）　13：00～17：00

2．場　所　東京都港区新橋「航空会館 504 会議室」
東京都港区新橋 1-18-1　TEL：03-3501-1272
交通機関：JR 新橋駅日比谷口・地下鉄東京メトロ銀座線・都営浅草線⑦出口より徒歩 6 分，地下鉄都営三田線内幸町駅 A2 出口より徒歩 1 分

3．テーマ　農業用水の受給構造の変化に対応した適正水管理システムの構築（仮）

4．講演者および題目

「農業水利施設の管理体制の現状（仮）」
農林水産省農村振興局整備部水資源課課長補佐　東　崇史

「低平地における配水槽による低圧パイプラインの導入（仮）」
新潟県新潟地域振興局巻農業振興部計画専門員　澤田　修

「ICT を用いた広域水管理システムの構築と適正水配分（仮）」
磐田東部土地改良区　長島康男・村松幹郎

5．参加費　500 円

6．参加申込み・問合せ先

農業水利研究部会事務局
〒156-8502　東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科
地域資源利用工学研究室内（担当：中村好男）
TEL：03-5477-2337　FAX：03-5477-2620
E-mail：nyoshi@nodai.ac.jp

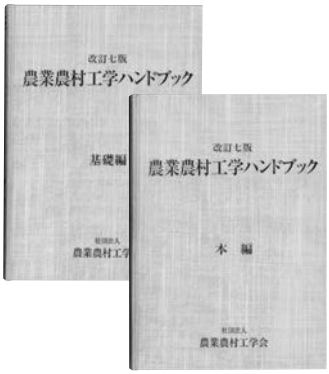
改訂七版 農業農村工学ハンドブック

公益社団法人 農業農村工学会　編

本書は，学会創立 80 周年の記念出版事業として，農業土木学会から農業農村工学会への学会名称の変更等をふまえ，「改訂六版農業土木ハンドブック」を改訂したものです。

今回の主な改訂点は以下のとおりです。

・判型：B 5 判・8 ポイント組，本編・基礎編の 2 分冊としました。
・販価：対象読者層の若手技術者および学生層を考慮し，出版を農業農村工学会独自で行い，購入しやすい価格を実現しました。
・構成：本編（6 部構成），基礎編（6 部構成），付録編（農業農村工学教育）の構成としました。
・内容：改訂六版の精神を継承した上で，現代の農業農村工学を体系づけるものとし，新分野の拡充と既存分野を整理・統合しました。さらに，基礎編は，JABEE 認定プログラムに配慮して構成しました。



体　　裁：B 5 判　本文約 1,250 ページ
（本編約 800 ページ　基礎編約 450 ページ）
定　　価：20,571 円（税込・送料学会負担）
会員特価：16,458 円（税込・送料学会負担）

発行：公益社団法人 農業農村工学会
TEL：03-3436-3418　FAX：03-3435-8494
E-mail：suido@jsidre.or.jp
学会ホームページ： http://www.jsidre.or.jp/